

## 評価シート 様式

取組名	霧ヶ峰“彩り草原空間”構築プロジェクト		
実施団体名	霧ヶ峰自然環境保全協議会	対象地域	長野県 諏訪市・茅野市・下諏訪町(霧ヶ峰地域)
(代表団体名)	諏訪市	推薦団体名	
① 実施 状況	提案書に記載された取組内容について、当初の計画通り実施されているか		平成20年度に行われた取組の実施体制について
	<input checked="" type="checkbox"/> 申請時に予定した取組を適切に実施したと判断される。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断される。
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部が未実施となっている。但し、予定した主要な取組は適切に実施したと判断される。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り地域の関係者が明確な役割分担の下、各々主体的に実施されたと判断されるものの、改善の余地が認められる。
	<input type="checkbox"/> 申請時に予定した取組の一部又は全部が未実施となっており、特に主要な取組が実施されていない。 (備考・特記事項)		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、主体的に実施されたと判断できない。 (備考・特記事項)
③ 効果	平成20年度に行われた取組の当初目標の達成状況について		平成20年度に行われた取組の継続展開の見込みについて
	<input checked="" type="checkbox"/> 当初設定した目標を達成し、実施した取組が予定していた成果をあげたと認められる。		<input checked="" type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り又は発展的に継続展開が予定され、持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input type="checkbox"/> 当初設定した目標の達成には至らないものの、実施した取組が予定していた成果の一部又は全部をあげたと認められる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画とは一部異なるものの、取組方法の改善等により持続的・効果的に取組が進捗すると見込まれる。
	<input type="checkbox"/> 実施した取組が当初の目標の達成に至らず、予定していた成果をあげることができなかったと認められる。 (備考・特記事項) インタープリター発掘型エコツアーについては参加人数が目標をやや下回ったものの、次年度の取組に繋げるために必要な人材発掘は出来ており、一方で、保全再生活動参加者が大幅に増加する等気運も高まっており、さらなる人材発掘も期待できることから、実質的に当初目標は達成できたと考えられる。		<input type="checkbox"/> 実施した取組について、当初の計画通り持続的・効果的に取組が進捗するとは見込まれない。 (備考・特記事項)
		② 実施 体制	④ 継続 展開 の見 込み

※①において「申請時に予定した取組とは異なる取組が行われた」場合や、③において評価シート作成時点で成果を把握できない場合など、留意事項がある場合に「備考・特記事項」欄に記載する。

## 評価シート 様式

取組名	霧ヶ峰“彩り草原空間”構築プロジェクト		
実施団体名	霧ヶ峰自然環境保全協議会	対象地域	長野県 諏訪市・茅野市・下諏訪町(霧ヶ峰地域)
(代表団体名)	諏訪市	推薦団体名	

⑤ 総合評価	○ 複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果に関する所見 霧ヶ峰の自然再生と地域経済(観光・農業)再生を一体的に行っている点で複合性が評価され、関係者が組織した協議会が有効に機能して自然再生という課題に取り組んだ点で、先導性・モデル性を高く評価できる。また、新たなエコツーリズムや循環型農業の創出等、地域経済や産業への相乗効果・波及効果も今後期待される。
	○ 評価
	■ ①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」の全てにおいて評価が高く、「地方の元気再生事業」の趣旨に鑑みて優れた取組であると評価できる。
	□ 「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であると評価できる。ただし、①～④及び「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」のいずれかについて改善の余地が認められる。
	□ ①～④のうち1以上の項目で評価が低く、「複合性、先導性・モデル性、相乗効果・波及効果」においても特筆すべき点が認められず、「地方の元気再生事業」の趣旨に合致した取組であるとは評価できない。
	(評価の考え方及び次年度以降に向けた所見)
	大学・民間・行政を包括する協議会において霧ヶ峰再生のための基本計画を策定するとともに、当該協議会が適切な役割分担のもと有効に機能して住民、団体の連携を促進しており、関係者が連携して自然再生に取り組むモデルとなり得る取組である。また、霧ヶ峰の自然再生を図りつつ、これを活用して環境負荷が低いエコツーリズムや循環型農業を立ち上げることで、地域活性化に寄与する取組であると評価できる。 次年度事業に関しては、バイオマス利用等が具体化できる実用化実験、エコツアーの担い手育成本格化・歩くことを中心としたエコツーリズム立ち上げ、一般住民・利用者への一層の理解促進対策について地方の元気再生事業を継続することにより、本格展開が期待できるものである。